



# THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO KITA

c/o TOKYO YMCA 2-2-20 TOYO KOTO-KU TOKYO 135-0016, JAPAN Tel.03-3615-5562  
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS. CHARTERED 1980



**2020年 11月 No476**

Jacob Kristensen (デンマーク) 国際会長主題:

「VALUES,EXTENSION,andLEADERSHIP」 [価値観、エクステンション、リーダーシップ]

スローガン: 「TRUST IN THE RIVER OF LIFE」 [命の川を信じよう]

David Lua アジア太平洋地域会長主題: 「Make A Difference」 [変化をもたらそう]

スローガン: [奮い立たせよう]

板村哲也(東京武蔵野多摩)東日本区理事主題: “ Let’ s enjoy Changes’ 」 [変化を楽しもう]

副題: 「Let’ s help and share each other」 [助け合い、分かち合い]

柿沼敬喜 (東京グリーン) 関東東部部長主題: 「学びと親睦を糧に外へ向かおう！」

村杉一榮 東京北クラブ会長主題: 「 元気をだして 楽しく! 」

会長;村杉一榮 副会長;磯部成文 書記;金 秀男 会計;磯部幸子 担当主事;小松康広

**今月の聖句**

詩編 126 : 5

『涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。』 金 秀男 選

**第592回 11月例会プログラム**

日時: 2020年11月17日 (火) 13:00~15:00

会場: 日本キリスト教団浅草教会 教育館

卓話: 『Yとの出会い、沢山のひとのご縁をいただいて

.....そしてこれから!』

会員 小仁恵子氏

ハッピーバースデー

9日 菅谷 功 9日 松島良樹 15日 神谷邦子

**今後の予定**

**1. 第一例会プログラム**

①第593回 2020年 12月16日 (水) 17:00~  
クリスマス例会 第一部 17:00~礼拝 浅草教会にて  
第二部 18:00~クリスマス祝会

②第594回 2020年 1月19日 (火) 13:00~15:00  
卓話 「熊本豪雨災害支援活動に参加して」  
池田麻梨子氏 (東京YMCA 南コミュニティーセンター)

**2. 報告・協議事項**

①1月例会は東京北クラブ40周年記念例会として予定していたが、コロナ禍が続いているので開催を延期することとした、来年4月または5月の開催を検討する。

1月より協議していくことにする。

②関東東部より、CS活動費として、全クラブに3万円が支給された。

③来年1月に予定されている在京ワイズメンズクラブ新年会について、アンケートがあり、本クラブとしては開催を希望しない返答をした。

**「第591回 10月例会報告」 小仁恵子会員**

日時: 2020年10月20日 (火) 午後1時~3時

場所: 興望館



10月例会は興望館において開催しました。野原理事長、大江浩氏、その他スタッフ5名の

皆さまに参加していただき開会点鐘、ワイズソング、聖書・お祈りで始まりました。

卓話は、4月より興望館の常務理事に就任された大江浩さんから『希望の扉~なぜなら、わたしは弱いときこそ強いからです』と題したお話を伺いました。

学生時代はキャンプリーダー活動に従事され、神戸・横浜YMCA、日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS) で海外医療協力や災害支援に従事された経験があり、日本YMCA同盟を経て現在は興望館において貴重な働きをされています。

大江さんは2002年8月下旬から9月中旬にかけて横浜YMCA 難民支援調査のため、パキスタンのペシャワールにあるアフガン難民キャンプからアフガニスタンの首都カブールの惨状

10月在籍者	10月出席者	10月出席率	B F等ポイント	ニコニコボックス
会 員 7名	会 員 7名	83%	月分	10月分
広義会員 5名	広義会員 3名	メイクアップ	切 手 0g	9,000 円
合 計 12名	メネット 0名	名	現 金 0円	本年度累計
	ビジター 0名	月修正出席率	本年度累計	29,000 円
	ゲスト 6名	%	切 手 0g	
	合 計 16名		現 金 0円	

を目の当たりにしつつ、中村哲先生の活動地である奥地の山岳の村を訪れ、危機感漂う体験をされました。中村先生は『医療（のみ）ではいのちを救えない、水と食糧があってこそ人を救える』との信念で30年間、アフガニスタンで医療に留まらぬ幅広い活動に生涯を捧げられた方です。宗教の壁を越えて「忘れられた世界最大の難民の国・アフガニスタン」の人々と共に生きる中村先生の働きが大江さんにとって草の根の人々と共に生きるミッションの現場を学んだ貴重な体験であったと話されていました。そして「絶望の中にあっても、人々は救える」という信念が人々を強くし、希望の扉を開けるのだ、それは興望館のセツルメント活動を通じて、地域に根差して人々と共に生きる活動を行ってきた精神にも通じることだと語られました。

昨年100周年を迎えた興望館は、地域に根ざした多様な福祉の活動・行事を通して幅広い世代が集うコミュニティ作りを継続され、今も新型コロナウイルス感染拡大防止の新たな取り組みを考え活動されています。お話を伺っていて、貴重な働きと沢山の体験をお持ちの大江さんが次の100年に向けたためのご縁を頂いているように感じました。コロナ禍の今こそ地域や人との関係を距離はあっても深めていけるように、興望館とワイズも共に歩む仲間でありたいと願っています。

ニコニコでは、スタッフの方々からもひと言頂きました。「コロナのこの時期この企画に感謝」「お話を伺い先達との繋がりが・ご縁の深さを感じた」「重量感のあるお話を伺うことが出来た」「夏のデイキャンプを行うこと出来ました！」など当日は会場設営、手作りクッキーと紅茶のお気遣いに感謝致します。

出席（興望館より）大江浩氏、野原理事長、萱村氏、石垣氏、吉田氏、竹田氏、矢島氏  
村杉、磯部・幸子、篠沢、金、有里、松島、神谷、小松、小仁（会員10名）

随筆 「家内の死」 松島良樹  
令和2年9月2日、約43年連れ添った家内が、75歳で亡くなりました。死因は肺炎でした。家内は、昨年11月に肩を骨折し入院、検査の結果血糖値が高い、心臓の働きが悪い等の病気が判明今年の8月まで長期入院していましたが、8月末、高熱を発生検査の結果肺炎と判明、翌9月1日小生が病院を訪れた時には既に呼吸困難で、9月2日の午前4時に亡くなりました。家内は日頃煙草を嗜んでいましたので、医者は肺の機能の低下が原因と言っていました。肺炎になって僅か3日で亡くなり、その瞬間、人の命は全くあっけないものだと痛感致しました。その後お通夜、告別式とつづき、10月17日には納骨を済ませ、現在ほっとしたところです。4月以降はコロナ禍で面会禁止、顔を見る事すらままならず、殆ど言葉を交わすことなく亡くなりましたので、元気の時、

小生が勤務先から帰った時に“お帰り”と言ってくれた言葉が今でも耳に響きます。小生家内と一緒にしてから海外勤務が合計11年程ありましたが、家内と海外で一緒にいたのが約2年で、後は日本に残り、両親の面倒を両親が亡くなるまで良く見てくれました。本当に感謝しています。その感謝を忘れぬ様、戒名の一部に“慈孝”とつけました。祈冥福。

++ 清泉YMCA便り++++ 露崎和奏さん  
こんにちは！代表の露崎和奏です。今年ルワンダとの交流や清泉祭など、オンラインの活動を試行錯誤し行ってきました。気が付けば年末で次の学年へのバトンを渡す時期となりました。例年では情報共有で終わっていましたが、今年は活動や経験が少なかつたため、プログラム運営を1.2年生に行っていただき3年はアドバイザーとして働きかけニュアンスや取り組み方を実践してもらい伝えることにしました。プログラム内容といたしましては「日韓コースの交流」を予定しております。また草の根の交流を経験し、新しい興味や多様な視点を持つことも目的としております。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

\*\* 興望館便り \*\*\*\* 萱村 竜馬さん  
こうぼうかんウィーク  
「楽しみにしてたこうぼうかんデイがないから…。沓掛学荘の子たちがつくったハーバリウムを四国のおじいちゃん、おばあちゃんに送ってあげたいの。」保育園の園児さんと保護者さんの言葉でした。このコロナ禍に例年のような1000人規模の集いはできません。しかし、おやつやハーバリウムなど手づくり品の販売を通じて、なかなか顔を合わせられない地域の方々や顔を合わせることができました。9月に後援会役員のみなさんとともに知恵を絞って企画した『こうぼうかんウィーク』がウィズコロナといわれる状況で新しいなにかを生んでいる手応えを感じます。

YMYMYMYMYMYMY YMCANews YMYMYMYMYMYMY  
1.約1か月に及んだ「第34回チャリティーラン」全てのイベントが無事に終了しました。参加者数1,213人、総距離約62,701km、400万円を超えるご支援をいただきました。大変感謝申し上げます。  
2.冬期キャンプやスクールは、定員を減らすなど新型コロナウイルス感染対策を徹底し、ファミリーキャンプやネイチャーキャンプなどの新しい企画も取り入れて実施する。10月28日より一般受付を開始した。また宿泊を伴うコースの一部は、GoToトラベルキャンペーンの適用を受けることが決まった。  
3.恒例の東陽町センター「クリスマスオープンハウス」は、コロナ禍の影響でスタイルを変え、12/1~5に「ミニバザー」を1階ロビーにて開催することになった。  
(小松康広担当主事)